

## 編集後記

■「にちぎん」の刊行からちょうど2年になりました。この間、皆様からたくさんのご意見・激励等をいただきました。改めて御礼申し上げます。

さて、3年目に入った今号から新しい企画をスタートさせました。これまでの「クロズアップ——あの日あの時」に代えて「貨幣の歴史学」シリーズを掲載しています。今回は富本銭を取り上げて、最新の研究成果をレポートしています。今後8回にわたって連載する予定です。ご期待ください。

また、冒頭のインタビューも、一昨年の「・・・力」シリーズ、昨年の「動詞」シリーズに続き、今年は「扉を開く」シリーズを始めました。明るい未来に向けて扉を開いて行く。そのために何が必要か？ インタビューした人の生き方、考え方などを通してヒントやきっかけを提供できればと思っています。

(湯本)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2007年 春号  
編集・発行人 湯本崇雄  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 敷島印刷株式会社  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

## 一万円券、五千円券および千円券の今後の支払について

▼日本銀行が発行する一万円券、五千円券および千円券につきましては、旧券（一九八四年十一月に発行を開始した銀行券をいいます。）から新券（二〇〇四年十一月に発行を開始した銀行券をいいます。）への切替えが進捗し、日本銀行からの支払は、現在ほぼ全額が新券となっておりま。

こうした状況を踏まえ、日本銀行は、これらの三券種について、本年四月以降、旧券による支払を行わない扱いとすることとしたのでお知らせします。

なお、四月以降も、旧券は引き続き有効な銀行券として使用することができまので、念のため申し添えます。

## 「日本銀行調査季報」および「Bank of Japan Quarterly Bulletin」の刊行取止めについて

▼日本銀行では、金融経済動向等に関する調査・研究成果や、日本銀行の業務内容等をご紹介する媒体として、平成十六年十月より「日本銀行調査季報」を、また平成五年二月より「Bank of Japan Quarterly Bulletin」(Q B) を刊行して参りました。一方、この間、インターネ



ットのさらなる普及に伴い、調査季報等に掲載される調査・研究論文等についても、ホームページでの公表を通じて、ユーザーの皆様迅速かつタイムリーにご利用いただける形が一段と定着してきております。こうした中で、より効率的で効果的な情報サービスの提供を図る観点から、本年より調査季報およびQ Bの刊行を取止めることとしました。

また、これまで調査季報等の掲載対象であったような調査論文・資料や、別途公表してきた各種レポート（地域経済報告（さくらレポート）、金融システムレポートなど）をまとめて、「日本銀行レポート・調査論文（BOJ Reports & Research Papers）」としてホームページに掲載することとし、個人名で公表している「日本銀行ワーキングペーパーシリーズ」などの位置付けの違いを明確にします。

## 「にちぎん☆キッズ」の小冊子を作成



▼日本銀行ホームページのキッズコーナー「にちぎん☆キッズ」の内容を基にした小冊子を作成しました。主として小学校高学年の金融教育を目的としたもので、学校の先生向けのセミナーなどを通じて普及を図っていく予定です。